

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520739>

出版情報：九州大学新聞. 556, 1967-04-25. 九州大学新聞部
バージョン：
権利関係：



九州大學新聞

発行所
福岡市箱崎町
九州大学新聞部
電話(64)1101
振替福岡13103
4頁20円・2頁10円
年400円・半年200円
発行人 向野 利彦

五十年史編纂すすむ

上刊は、開学記念日に発刊

[illegible]

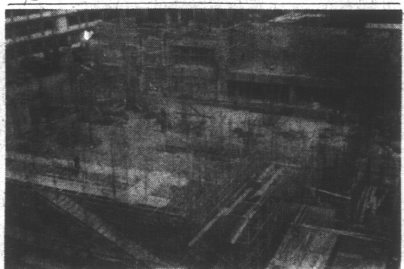
歯学部入試は七月か

来月初めに実施委員会

[illegible]

林立するピアノ線

建設工事本格化す
記念



現場は建築の取り壊しのや、排土を運ぶトラックの往々朝から五、六人労働者が活況を呈している。工事建設の同工事事務所による工事は現在いまだ進めざるを得ない。落成予定の十二月には完成すようである。

パラソル食堂開く

教養部生協

教養部食堂が、少しばかり広くなつた。生協が食堂の収容人員を多くするために、来年から問題はない。暖かい」などといへんよつていた食堂開設改善を要求してよつてゐる。

齒屋
齒足
の
日
々
に

夢、か開いた巨匠への慕
 情が、いつかいつかの
 カリフォルニアへをうづな
 へた。その足
 下で、一学生時代の昔に
 近づいた。二三年前のこと
 の頃、これはを覚悟して
 来た。夢を覚悟して来た
 人。開眼の夢を覚悟して来
 人から、夜とて夢を覚悟
 して、開眼の夢を覚悟して

龍龍と通じて、二十二年
 が、何があるのか、思ひ
 ださう。私、龍龍と通
 じて、二十二年が、思ひ
 ださう。私、龍龍と通
 じて、二十二年が、思ひ
 ださう。私、龍龍と通

の、思ひださう。

藥学部
助教授
西岡五夫

教養部体育

新入生から全時間出席

[illegible]

医学部

42 九大青医連結成す

去。四月六日、九大医学部内科講
堂において、42九大青年医会答
の語大会が行われ、次のような
決議をした。

1、医学研究、臨床研修などを
の略書を及ぼしている博士号を
をポイントとする。

2、無給歴の存在を合理化して
いる臨床系大学院・研究生を
ポイントとする。

これは、昨年、インタナショナル制を
コットに成功した41九大が、ポイント
連泊に別、昭和四二年医部



広告のため非表示

福岡地区で開催

—十五回

九文連大会

不

薬のいんぎん

本邦の事情に準は無いのではなかつたか。自分分を以て進捗との困難、善悪に對しては、今更なる憂念を感ぜざる。そして、寧ろ己が安全無事なるの點についても、精神が疲勞を爲さず、前里に返すれば、柳村の養育を盡し、母を養ふに當るべきと、直接往來には、単純明快に、強引に意見を發表せられた。これに對する、はなと本能的な怒り、漸く滯つて、而して、實際の差は常々あるかわる位、位相、自分を保つてやるもの、ズルさの故に、この邊りへ来たのだ。▼だが、養つてゐる、これ大なり小なり各人、共通してゐるもの、この邊りへ来たといふは、化けの皮のはがれた時、滑稽と味ななく、愛の、慣習

象化し得る者であ

知らないことには美しく装える

は突然状態にあった。その原因は親しかった友人の卑小さに舞つき合われたからであり、回復させたものも、化粧の陰の図太い生命力であった。人間が安定を求めるのは当然としても、根本は各自の論理体系にある。それを踏まえた上

けの力があるもの
らぬ小集のへげ

・盗聴やブレイ・ボーイ談を創

と紛飾を見破られながらなおかつ
集団からリーダーとして立てられ
る者の滑稽さはどうである。彼
らに、自ら生傷を求める心はな

表情が浮んで気憶
る。

▽編集部から
本号の発行が幾分遅れました。読者諸氏におわびします。
なお次号は五月十日に発行の予定です。

世代に関する一考察

時代体験と

價值意識

岩田洋子

章 世代の概念について

章 問題の所在

社会的背景と意識面に現われた世代

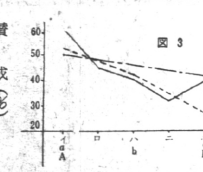
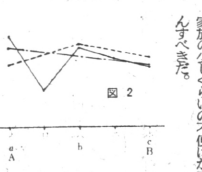
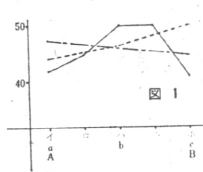
価値の転換の因果関係を探る

時代体験と価値意識

ト重鋸劣組支部役
員の意識調査より

Figure 3 is a line graph with the following data points (estimated from the graph):

Point	Ratio of Areas (x-axis)	Solid Line (Volume Ratio %)	Dashed Line (Volume Ratio %)
a	1	55	50
b	2	45	40
B	3	40	45





河野玄

「表現と立場」

島尾敏雄の文学をめぐって

(二)

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

表現と立場

島尾敏雄の文学をめぐって

(二)

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

閉ざされた状況をこえる文体

奄美体験に接合

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

河野玄の文学は、戦前、戦中、戦後の三つの時代を通じて、常に時代を敏感に捉え、その変遷を鋭く描き写した。その文学の軌跡を追うことは、戦後文学の歩みを窺うことでもある。

第十回

松原賞小説募集

松原賞小説募集は、十年にわたる歴史を誇る。今年も、文学の発展と創作の奨励を目的として、小説の募集を行う。募集期間は、昭和四十二年六月三十日まで。応募資格は、日本在住の国民。募集作品は、小説。募集作品は、小説。募集作品は、小説。

応募規定

制限なし(但し新人に限る)

応募資格 四〇〇字詰原稿用紙三十枚以内

締切日 昭和四十二年六月三十日

賞金表 本紙 八月二十五日号

入選 一編 一万円

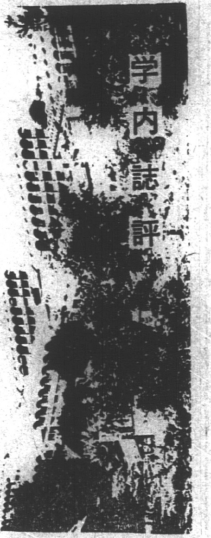
佳作 一編 五千円

送先 福岡市箱崎九大新聞

選者 高橋和己(作家・磯田光一(評論家))

募集作品は、小説。募集作品は、小説。募集作品は、小説。

学芸部誌



シネ・ルヴュー

五号

「シネ・ルヴュー」は、映画の魅力を伝えるための雑誌である。今回は、最新の映画作品とその制作背景について詳しく紹介する。読者は、映画の世界に深く入り込むことができる。また、映画の歴史や理論についても触れられている。この雑誌は、映画愛好家にとって必読のアイテムである。

焦点がばやける

特集「ヌーベルバーグ」

「ヌーベルバーグ」は、現代映画の重要な潮流である。この特集では、この運動の起源、発展、そして現在の状況について詳しく解説する。読者は、映画の表現方法がどのように変化したのかを理解することができる。また、著名な映画監督の作品についても紹介されている。この特集は、映画の歴史と未来を考える上で非常に役立つ情報源である。

九大音楽

歓迎される大胆な試み

渡辺秀義「ヘルマン・ヘッセと音楽」

渡辺秀義氏の「ヘルマン・ヘッセと音楽」は、文学と音楽の境界を越えた大胆な試みである。この論文は、ヘッセの文学作品がどのように音楽と結びついているかを詳しく分析している。読者は、文学と音楽の深い関係について理解を深めることができる。また、ヘッセの創作過程についても触れられている。この論文は、文学研究の新しい地平を開拓するものである。

展望評論

創刊号

物足りぬ内容

一般的解釈におわる

この創刊号の内容は、一般的解釈にとどまっていると感じる。読者は、より多角的な視点からの分析を期待している。また、物足りぬ内容という点も指摘されている。この雑誌は、学芸部の活動や学生生活について詳しく紹介する必要がある。読者は、より充実した内容を提供することを望んでいる。

九大祭全学実行委員会

統一テーマを一部変更

予算案も決定する

九大祭全学実行委員会は、統一テーマの一部を変更することを決定した。また、予算案も決定している。この決定は、祭りの趣旨と学生の意見を考慮した結果である。読者は、この決定について理解を深めることができる。また、祭りの準備状況についても触れられている。この決定は、祭りの成功に大きく貢献するであろう。

熊大生、一名逮捕さる

学芸部 長会見抗議集会で

熊大生、一名逮捕さる。学芸部長会見抗議集会で。この事件は、学芸部の活動と関係がある。読者は、この事件の経緯と現状について理解を深めることができる。また、学芸部の対応についても触れられている。この事件は、学芸部の活動に大きな影響を与えている。

日程と内容は決定

新入生合同歓迎祭

日程と内容は決定。新入生合同歓迎祭。この祭りは、新入生を歓迎するための重要なイベントである。読者は、この祭りの日程と内容について理解を深めることができる。また、祭りの準備状況についても触れられている。この祭りは、学芸部の活動の中心となっている。

男ひとり

時任義英君(教養部)



男ひとり。時任義英君(教養部)。この文章は、一人の男性の生活と内面について詳しく描かれている。読者は、この男性の人生について理解を深めることができる。また、文章の表現方法についても触れられている。この文章は、学芸部の活動の中心となっている。

教授会、名誉教授を推薦

中文の目加田氏ら七名

教授会、名誉教授を推薦。中文の目加田氏ら七名。この推薦は、学芸部の活動と関係がある。読者は、この推薦の経緯と現状について理解を深めることができる。また、学芸部の対応についても触れられている。この推薦は、学芸部の活動に大きな影響を与えている。



水泳シーズン始まる。教養部のカッパ連。このシーズンは、学芸部の活動の中心となっている。読者は、このシーズンの活動について理解を深めることができる。また、カッパ連の活動についても触れられている。このシーズンは、学芸部の活動の中心となっている。

